



New York Representative Office

ニューヨーク駐在員報告



ロックフェラーセンターのクリスマスツリー(2022)

世界経済を牽引する 米国リテールマーケット

はじめに

米国は、世界一のGDP(世界のGDPの約25%)を誇り、その約7割を個人消費が占める消費大国です【図1】。米国の個人消費は、足元の金融引き締め下においても衰えを見せず底堅く推移しており、米国経済のみならず世界経済にも大きな影響を与えています。今回は、その個人消費にフォーカスし、今後の米国におけるリテールマーケットの動向について考察します。

なぜ米国の個人消費は強いのか

米国の旺盛な個人消費を支える大きな要因の一つに、所得水準の高さが挙げられます。過去10年間の賃金上昇率を見ても、総じてCPI(消費者物価指数)を上回る水準で推移しており、賃金上昇への期待が消費を呼び込み、経済全体が成長するという市

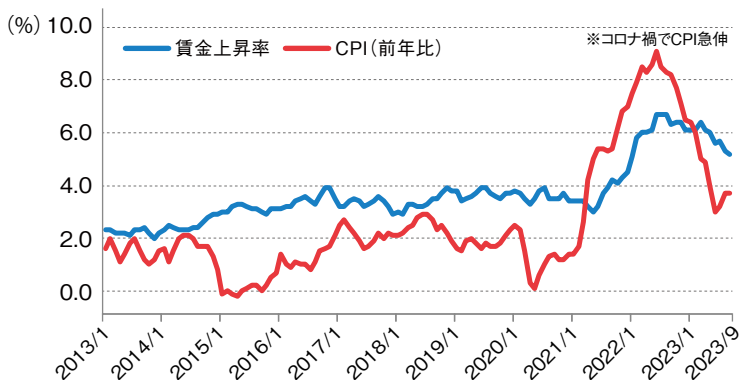
場メカニズムが形成されています【図2】。

個人消費の約7割を占めるのが外食・旅行・レジャー等のサービス消費です。新しいもの好きの米国人の消費マインドの高さに加え、世界中の多種多様な食文化や新たな流行を次々と生み出すエンタメ業界等の豊富な消費機会が、好調なサービス消費を牽引する原動力となっています。加えて、米国でのクレジットカードの普及率は約8割と借入へのハードルが低いことや、若年層を中心に浸透するBNPL(Buy Now Pay Later)等の後払いサービスも、消費行動を促す要因となっています。

魅力的なリテールマーケット

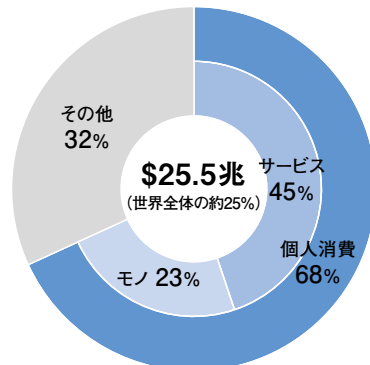
米国の人口は約3億3,500万人と世界3位の規模を誇ります。先進諸国が人口減少トレンドに入る中、米国では今後も移民流入等による人口増加が見込ま

■ 図2 米国の賃金上昇率とCPI(消費者物価指数)推移



出典)米国労働統計局の統計より当行作成

■ 図1 米国のGDP内訳



出典)米国商務省経済分析局の統計より当行作成



■ 大勢の観光客や地元民で賑わうカジノ街

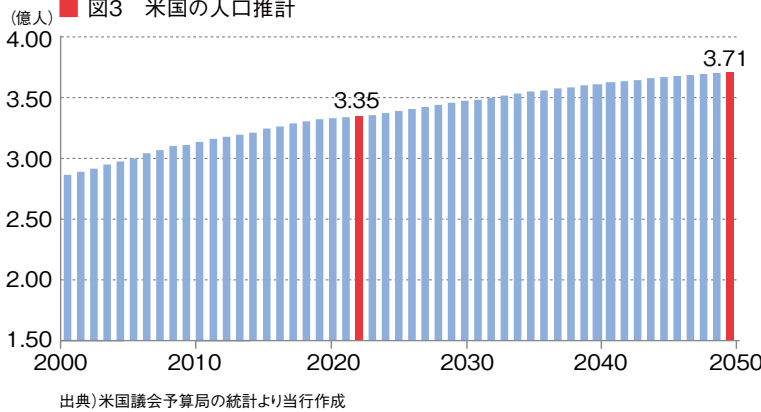


■ ラスベガスの中心地に出現した球体型アリーナ「Sphere」

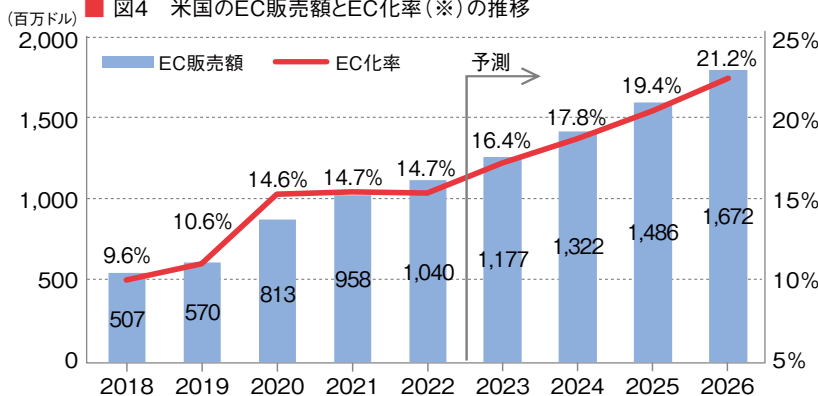


れており、リテールマーケットの着
 実な成長が期待されています【図
 3】。中でも、eコマース市場はコ
 ナ禍を契機に急激な伸びを見せ
 ており、今後も若年層を中心に市
 場規模の拡大が見込まれること
 に加え、地理的制約もないこと
 から、越境ECによる海外企業の進出
 も増加傾向にあります【図4】。
 eコマース市場への進出に当た
 っては、今後、親世代からの預金シ
 フトで経済活動の中心を担って
 いくミレニアル世代やZ世代の嗜好
 を捉えたマーケティングが重要と
 なります。生まれながらのデジ
 タルネイティブでネットやSNSに
 精通していることから、eコマ
 ースとの親和性が高いことに加え、
 多様性やサステナビリティ・社会貢
 献への意識が高く、ブランドより
 もパーソナライズされた商品サー
 ビスに価値を見出す消費傾向に
 あることから、会社の規模や歴史
 に関わらず、幅広いビジネスチャ
 ンズが見出せる挑戦すべき市場と
 も言えます。

■ 図3 米国の人口推計



■ 図4 米国のEC販売額とEC化率(※)の推移



最後に

米国のリテールマーケットは世
 界一の規模を有し、今後も市場
 の拡大が見込まれています。こう
 した魅力的なマーケットを求め、
 世界中から人や企業が集積し、
 その多様性がカルチャーとして受
 け入れられることで、新たな価値
 観やビジネスモデルが次々と生ま

れています。

福岡銀行「ニューヨーク駐在員事
 務所」では、お客様の米国進出に
 あたつての各種ご相談を承ってお
 ります。お気軽に最寄りの支店ま
 でお問い合わせください。

2023年10月31日現在
 (ニューヨーク駐在員事務所
 大里誠)